2010.4.15

Contents

町の古民家に学ぶ
新しい「かぞく」の家のかたち
連載
キニナルマドリ
HABITAble
住まいは巣まい
住まい文化の栞
HABITAな風景
住健住康
Green Earth
5th ROOM

Weekly HABITA 025

町の古民家に学ぶ

家づくりの本当の極意は、人間工学などの活用方法の分析や完成された図面の中だけにあるわけではありません。むしろ、古民家には長い間住むことによって、収束されてきた隠された極意が多くあります。そしてその古民家は、豪農の家ばかりではなく、探せば町中の古民家にも独特のつくりが残っています。現代流にいえば都市型の家であり、当時の人間関係をしっかり反映しています。古い都市型の住宅から学べることとは何でしょうか。

軒先を貸す

雪の深い国に見られる雁木。現今ではアーケードと呼ばれることが多いですが、通りに面した店舗の軒先を延ばして雪のかからない歩道を確保しました。一軒一軒の家の工夫が連なり、通りとなって当時のその街の賑わいを支えてきたものです。まさに昔の目抜き通りであり、当時の都市型の生活がありました。

「軒先を貸す」と言えば、「母屋を取られる」と思い浮かべますが、元来、軒先は貸して普通のものでした。それは農家の縁側の使い方も同じです。

地域社会の結束が強固であった時代には、通りを行き交う人も家族と同じ扱いだったのです。言わば軒の出は、通りのみんなのためにありました。雁木はまさにその象徴です。

同じように街道筋の小さな宿場町でも似た事例があります。残されていた貴重な上の写真は信州本山宿のものですが、1階よりも2階を表通りにせり出させることで、その上の軒の出と合わせて雁木のような空間が生まれます。

さらに正面の入口に見える引き戸の扉は、全体が蔀戸になっています。蔀戸と言うのは表に跳ね上げるようにして開ける扉で、開けている状態では庇屋根のような役割を果たします。その中には、土間があって人の出入りが活発に行われていました。

古来の日本では、京都の町屋に代表されるように間口の広さで税金が決まっていたため、間口が狭く、通りに軒が出されることが多かったのです。

©Laurence Gough-fotolia.com

町の中のオアシス

同じような事例が、右の写真にある欧州のイギリスにも見ることができます。500年以上も前の15～16世紀の住宅ですが、イギリスでは1階の床面積に税金がかけられていたために2階を大きくした木造住宅が盛んに建てられました。2階が桟橋のように飛び出していることから、"JETTY"という愛称が付けられていて現在にも多く残されています。偶然、日本でも桟橋にのぼる階段のことを雁木と呼んでいたことから、雁木が桟橋という意味を持ちます。

JETTYの軒下は狭い町の生活の中で大切な通路として使われていました。馬車が通る道を確保していたのです。また表通りだけではなく、中庭に面しても同じようにせり出して、庭の広さも確保していました。

都市計画が進んで、馬車の通行も無くなり、前面道路も広い歩道となった現在は、その軒下はカフェとして使われています。まるでみんながくつろぐ町中のオアシスのような存在です。表を歩く人と住んでいる人との関係が近い町の中では、日本でも西洋でも軒下はみんなのために貸すのが当たり前であったのでしょう。

生活の歴史がある家

地域のつながりが薄れた現代では、セキュリティを考えただけでも軒下を貸すのは難しくなりつつあります。それでも新しい家のかたちを考える上では、参考になることも多いものです。通りの軒下は、現代社会では不可欠である自家用車を停める場所として活用できます。また、敷地が狭い都市部でも通りの反対側に庭を作ることができます。

その意味では狭小の敷地を、最大限に活用できる工夫が、こうした町の古民家の中に埋め込まれているということです。それぞれの敷地に合わせて工夫を凝らした間取りを検討する前に、歴史のある間取りやデザインを受け止めて検討を重ねるのは良いことです。長年の生活で鍛えられて残ってきただけに、使いこなせば測り知れないメリットを見出すことができるかもしれません。

たとえば敷地に余裕があれば、カーポートの他に使い方を拡げ、庭づくりに多くの夢を盛り込めると思えば良いのです。さらに都市とは程遠い立地条件であっても、充分応用できます。広いデッキにシェードを張って過ごすのにも、せり出した梁を有効に活用できるでしょう。隣に大きなデッキを取り付けて、その下をカーポートにすればより立派な住宅になります。大きな掃き出しの窓を取り付けて庭と一体にすると、総2階でありながら借景の青空を軒先で切って眺めて楽しむことができます。

古民家のイメージの代表である、縁側や土間や小屋裏だけではなく、こうした町の古民家のつくりにも学ぶべきことはたくさんあるのです。

MISAWA international